ストックホルム大学交換派遣留学生　大久保裕太さん（法学部経営法学科３年）

2015 年 10 月 6 日

スウェーデンでの生活が始まって、１ヶ月が経ちました。来た当初は、暑すぎると感じていましたが、今では長袖・長ズボン、夜に出かけようものなら薄いダウンジャケットが必要なくらい一気に寒くなりました。また天気の移り変わりがとても激しいように感じます。家を出る前には晴れていたのに、学校につく頃には雨がパラパラ降っているといった天気がよくありました。しかし雨が降っても、スウェーデン人は滅多に傘をさしません。

学習に関しましては、まず、授業形態が全く違います。これは来る前からわかっていたことですが、週に二回で一日一コマ（２時間くらい）しか授業がありません。これを見ると、ゆるい・簡単だなぁー・毎日遊べるじゃん！と思うかもしれません。しかし授業が終わるごとに、次の週の時間までに提出といった課題が出されて、嫌でも家で勉強しなければいけません。例を挙げると１０ページほどテキストを読むといったものから、大体２００ページくらい読んで、１５００字くらいでレポート書くといった計画的に勉強しなければ終わらないような課題です。私は今まで日本では授業以外であまり勉強する学生ではなく、更に英語で全てを行わなければならないので日々課題に追われ徹夜が続いています。レクチャーの方は、始まった当初は教授が言っていることが全然頭に入ってこない約２時間を過ごしていましたが、最近は７０％くらい理解しているつもりです。しかし日本と違いクラスメイトとディスカッションやグループワークがよくあります。そこで、自分の意見を即座に考えてそれを相手に伝えるのはまだ厳しい段階にいます。言いたいことが頭に浮かんでもそれに対応する英語が見当たらず結局言えないといった語彙力不足も露呈してきました。まだまだ英語を流暢に話すには時間がかかりそうです。

９月に入って language café がスタートして、今私は日本語のコーディネーターをしております。Language café では、その言語に興味がある学生とその国から来た留学生がコーヒーやビスケットをつまみながらフランクに会話をします。日本語の時間ではストックホルム大学に日本語学科があるので、多くの学生はスウェーデン人です。なかなかスウェーデンにいてもスウェーデン人と交流が少なかった私にとっては、リアルなスウェーデンが知れるのでとても毎週楽しみにしています。

生活に関しては、料理は英語以上に成長が見られません。
毎日同じような料理を作ってしまいがちです。今まで当たり前のように毎日違い、バランスが取れるよう創意工夫された母の料理を食べていましたが、当たり前でなくなった今、そのありがたみを身にしみて感じています。日本で一人暮らしをすれば感じることかもしれませんが、親の凄さ、偉大さを一ヶ月離れて初めて感じました。

ストックホルム市内にはこのような綺麗な場所が日本に比べて多くあり、リフレッシュしに行きます。写真を見てわかるように寝転がっている人もよくいます。